

◇調査・研究事業：農業ビジネス研究会

地域農産物を活用した

食品関連企業の取組と成長モデルに関する調査・研究

1. 調査・研究事業の背景・目的

近年、人口減少や消費行動の多様化が進む中、地域経済の持続的な発展に向けて、地域資源を生かした事業づくりの重要性が高まっています。食品関連分野においては、単なる商品開発にとどまらず、地域農産物の活用を通じて、地域との関係性や共感を価値として組み込む取り組みが注目されています。

埼玉県は、全国的なブランド農産物は多くないものの、大規模な消費市場を有しており、県産農産物を活用した商品・サービス開発や、農業者・地域との連携を通じた独自のブランド形成に取り組む食品関連企業が存在します。しかし、こうした企業の取組について、事業の背景や商品・サービスの特徴、マーケティングやブランド戦略、経営理念との関係性までを含めて体系的に整理・分析した事例は十分とは言えませんでした。

本調査・研究では、埼玉県産農産物を活用する食品関連企業のヒアリングや文献等の調査・分析を行い、事業展開の特徴や成功要因、課題を明らかにすることで、地域資源を生かした持続的な事業づくりに向けた実践的示唆を得ることを目的としています。

2. 実施内容

(1) 研究会内におけるチーム編成

当研究会では、直近6年間で本事業を含め5回の調査・研究事業を実施してきました。いずれの回も新規メンバーを募り、チームを編成しています。令和7年度は、最終的に9名のコアメンバーを中心に役割分担を行い、調査・分析および報告書作成を進めました。

(2) 文献調査・実地調査と情報共有

調査・研究の第一段階として、地域農産物を活用した商品開発やブランド形成に関する文献調査を実施するとともに、県内の道の駅等において実際の商品を確認するなどの基礎調査を行いました。調査結果を研究会で発表するとともに、Slack等を活用して情報共有を行い、メンバー間での共通理解の形成を図りました。

(3) 食品関連企業へのヒアリング調査

埼玉県内で地域農産物を活用している食品関連企業8社を対象に、ヒアリング調査を実施しました。ヒアリング先は、県内において一定の知名度を有する企業を中心に選定しています。企業内診断士にとっては、経営者等の生の声を直接聞く貴重な機会ともなりました。報告書では、各社について「事業概要」「特徴的な取組」「着目ポイント」「考察」の構成で整理しています。

(4) 理念起点の持続的成長モデルの考察

文献調査および企業ヒアリング等の結果を踏まえ、調査・研究メンバーによる意見交換を行い、診断士ならではの視点や知見を取り入れながら考察を行いました。報告書の最終章では、「理念起点の持続的成長モデルと中小企業診断士の支援視点」として取りまとめています。本章が、食品関連をはじめとするBtoC企業への助言・支援を行う際の参考となることを期待しています。

3. 報告会としてのフォーラムの開催

報告書完成後、調査・研究結果の報告会を開催しました。第一部では、調査・研究メンバーからの報告、第二部では、食品関連企業の持続的成長モデルをテーマに会場参加者との総合討議を行いました。

ヒアリング企業の経営者にも参加いただき、食品関連企業の持続的成長モデルや中小企業診断士としてのアドバイスポイントについて活発なディスカッションを行うことができました。

フォーラムのチラシ

■名 称:『ローカルフードビジネスフォーラム』～地域農産物を活用した食品関連企業の取組と成長モデル～

■日 時:2026年2月23日(月祝)14:00～16:00

■会 場:埼玉県中小企業診断協会 3階会議室

■内 容:
(第一部)

◇調査・研究報告:『地域農産物を活用した食品関連企業の取組と成長モデルに関する調査・研究報告』

発表:農業ビジネス研究会調査・研究メンバー

(第二部)

◇会場参加者との総合討議

調査結果の共有にとどまらず、現場で直面している課題や工夫、支援の視点を共有し、調査結果を「知見」で終わらせず、「実践」につなげる対話の場としました。



フォーラムの開催風景

4. まとめ

本調査・研究を通じて、地域農産物を活用した食品関連企業の取組は、商品開発にとどまらず、理念を基盤とした事業づくりによって、持続的な成長につながっていることが確認できました。

また、生産者や地域との協働を通じて価値を共創し、それをブランドとして市場に伝えていく姿勢は、今後の食品関連企業における重要な視点であるといえます。こうした取組を支援するにあたっては、事業の背景や理念を踏まえた伴走支援が求められます。

本研究会では、今後も地域資源を活かした企業の取組に向き合いながら、中小企業診断士としての知見を深め、地域経済の活性化に貢献していきたいと考えています。